

「富士市事前都市復興計画」の改定について

1. 事前都市復興計画とは

発災後、迅速かつ着実に復興まちづくりを進めることができるよう、あらかじめ、復興の課題を想定し、復興まちづくりの方向性や進め方等を定めた計画

2. 計画改定の背景／目的

- 国が示すガイドラインや新たに策定・改定した上位関連計画との整合
- 自然災害の激甚化・頻発化により全国各地で発生する大規模な自然災害への対応
- 防災・減災に対する意識の高まり

3. 主な改定内容について

復興ビジョン編の見直し

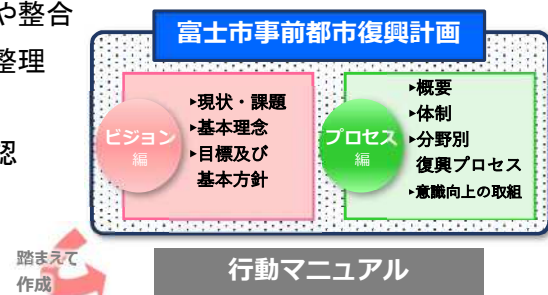
- ・現行計画策定以降に公表した上位・関連計画との連携や整合
- ・最新の災害ハザード情報に基づく被害特性及び課題の整理

復興プロセス編の見直し

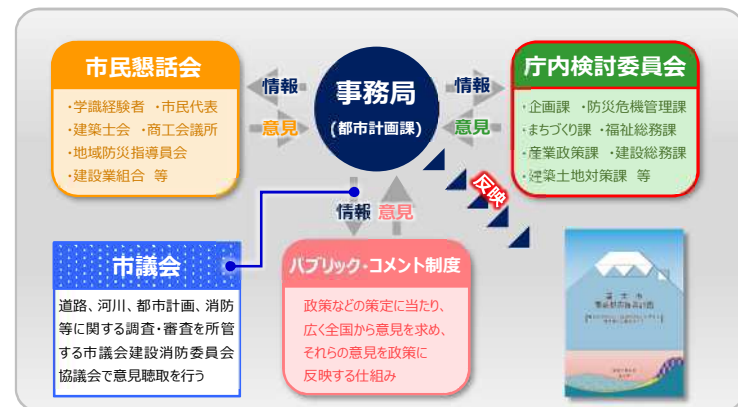
- ・「富士市業務継続計画(平成 29 年 4 月)」との整合の確認

行動マニュアルの見直し

- ・復興プロセス編の見直し内容や庁内検討委員会でのヒアリング等に基づく見直し



4. 検討体制について



本計画は、都市計画課が事務局となり、庁内の関係課で組織する庁内検討委員会や市内組織の代表、市民代表及び学識経験者等で組織する市民懇話会で検討を行うとともに、より広く意見を計画に反映させるためのパブリック・コメント制度による意見聴取を行った。

5. 改定経過



6. 社会資本総合整備計画（事後評価）

計画の目標

被災後の復興を早期に実現させるとともに、被災後も住み続けたいと思えるまちづくりを実現するため、「事前復興まちづくり計画検討のためのガイドライン」を基に事前復興まちづくり計画を策定し、復興事前準備の更なる推進を図る。

計画の指標

内 容	事前復興まちづくり計画に基づく復興まちづくり訓練を実施した地区の増加		
算定式	事前復興まちづくり計画に基づく復興まちづくり訓練の実施率（％） ＝復興まちづくり訓練を実施した地区数/市内全 26 地区		
達成状況	定量的指標の現況及び目標値		
	当初現況値（R6 当初）	最終目標値（R6 末）	最終実績値
	19%（5 地区）	23%（6 地区）	23%

復興まちづくり訓練

富士市事前都市復興計画に基づく平常時の主な取組として、大規模災害を想定し、復興まちづくりについて、発災前から市民・事業者・行政が協働で考える訓練

これまでの取組

- ①H27 年度 JR 富士駅北口周辺地区【市街地の復興】
- ②H28 年度 元吉原地区【津波浸水想定区域（最大規模）】
- ③H29 年度 田子浦地区【津波浸水想定区域（最大規模）】
- ④H30・31 年度 岳南鉄道線吉原本町駅周辺地区【まちなか拠点の延焼危険度ランク 5 / 建物倒壊】
- ⑤R3・4 年度 岳南鉄道線須津駅周辺地区【液状化可能性ランク大】

令和 6 年度復興まちづくり訓練

令和 6 年度は令和 5 年度から引き続き、延焼危険度及び建物倒壊の災害リスクが危惧される「広見商店街周辺地区」にて復興まちづくり訓練を実施した。



参加者の声（訓練後アンケートより）

- ▶参加していなかったら被災した時に何をしたいのか全くわからなかった ▶防災は事前準備が必要不可欠と確認できた
- ▶参加前は漠然と考えていた被災後のまちづくりが参加後では出来ることと出来ないことがはっきり区別できた
- ▶大きな災害の取組み方について少しは理解出来た ▶商店会の組織を事前に作り、考え方を町内会とともにまとめた
- ▶まちづくり、人づくり、魅力ある商店街、難しいと思った ▶事前に出来ることを少しずつでも取組んでいこうと思う

事業効果の発現状況

事前復興まちづくり計画に基づく「復興まちづくり訓練」を実施したことにより、発災後の復興まちづくりを迅速かつ着実に進めるための準備を行うとともに、復興まちづくりに対する理解を深め、市民・事業者等が共有すべき内容を事前に把握するなど、事前復興に対する意識の向上に繋がった。

今後の方針

今後も引き続き、事前復興まちづくり計画に基づく「復興まちづくり訓練」を実施することにより、平常時から復興まちづくりを考え、市民・事業者・行政等が共有すべき内容を把握するとともに、それぞれの立場での意識向上に努めることにより、発災後の復興まちづくりを迅速かつ着実に進めることが可能となるよう、事前復興まちづくりを推進していく。